2027年1月期 中間決算説明資料

株式会社ユークス

① 2027年1月期中間期 ハイライト

② 2027年1月期中間期 決算概要

③ 2027年1月期中間期 振り返り

④ 個別決算説明会について

© YUKE'S

2027年1月期中間期 ハイライト

2027年1月期は「受託安定化とIP比率向上の基盤構築期」

売上高	営業利益	当期純利益	調整後EBITDA*
2,592百万円 +43.9%	165百万円 +224.6%	32百万円 ▲5.3%	202百万円 +254.4%

*調整後EBITDA: 営業利益+減価償却費+のれん償却額

受託事業

- ゲーム・XR分野の収益性向上が業績をけん引
- 同分野の限界利益率は81.8%に上昇(前年同期78.0%)
- 受託事業全体の受注額は年間目標比72.8%まで進捗

自社開発事業

- IP(自社開発売上)比率は24.9%
- 「うたわれるもの 白への道標」は計画未達
- アクアプラス(以下、AP社)IPのイベント・グッズ売上は好調

受託事業の受注力及び採算性は着実に改善
自社開発事業は一部タイトルに課題は残すも、新作開発・既存IP展開を進め、IP収益拡大に向けたパイプラインを構築中

© YUKE'S

受託事業では、受注額が年間目標比72.8%まで進捗し、ゲーム・XR分野の限界利益率も前年同期78.0%から81.8%へ改善しました。受注力と採算性の両面で、安定化に向けた成果が出ています。

自社開発事業では、IP(自社開発売上)比率が24.9%まで上昇しました。しかしながら、「うたわれるもの 白への道標」は計画未達となっており、一部課題が残っています。他方、「WHITE ALBUM2」のイベント・グッズ販売は好調で、既存IPの多面展開には一定の成果がありました。

また、海外におけるアクアプラス作品の販売状況を見ると、AP社IPの認知度はまだ十分とはいえません。今後は、中国語圏・英語圏を中心に認知拡大に向けた施策を強化し、海外売上の拡大につなげていきます。

こうした取り組みを通じて、国内外におけるIP収益の拡大を図り、受託事業と自社開発事業の両輪で、より安定的かつ収益性の高い事業基盤の構築を進めてまいります。

① 2027年1月期中間期 ハイライト

② 2027年1月期中間期 決算概要

③ 2027年1月期中間期 振り返り

④ 個別決算説明会について

© YUKE'S

27年1月期中間期 業績概要(損益計算書)

（単位：百万円）

（前期比）	2026年1月期 中間期実績	2027年1月期 中間期実績	前期比 増減	前期比 %
売上高	1,800	2,592	792	+43.9%
営業利益	51	165	114	+224.6%
経常利益	49	144	95	+192.3%
当期純利益	34	32	▲ 2	▲5.3%
調整後EBITDA*	57	202	145	+254.4%

（予想比）	2027年1月期 業績予想値	2027年1月期 中間期実績	予想比 進捗率
売上高	5,300	2,592	48.9%
営業利益	275	165	60.0%
経常利益	290	144	49.7%
当期純利益	280	32	11.4%
調整後EBITDA*	382	202	52.9%

*調整後EBITDA: 営業利益+減価償却費+のれん償却額

前年同期比

売上高+43.9%、営業利益+224.6%と大幅伸長。特に受託事業の収益性が向上

売上高増加理由

- 受託開発: 稼働率向上(+147百万円)
- 自社開発: AP社連結効果(+645百万円)

営業・経常利益増加理由

- 受託開発の限界利益率向上(開発効率向上、外注費削減等)により収益性が改善

当期純利益減少理由

- 簡便法基づく計算により税金費用増加

予想比

- 受託事業は計画を上回り、収益性も改善
- 自社開発事業はイベント好調も、「白への道標」は計画未達
- 税金費用の影響により、当期純利益の進捗は低位

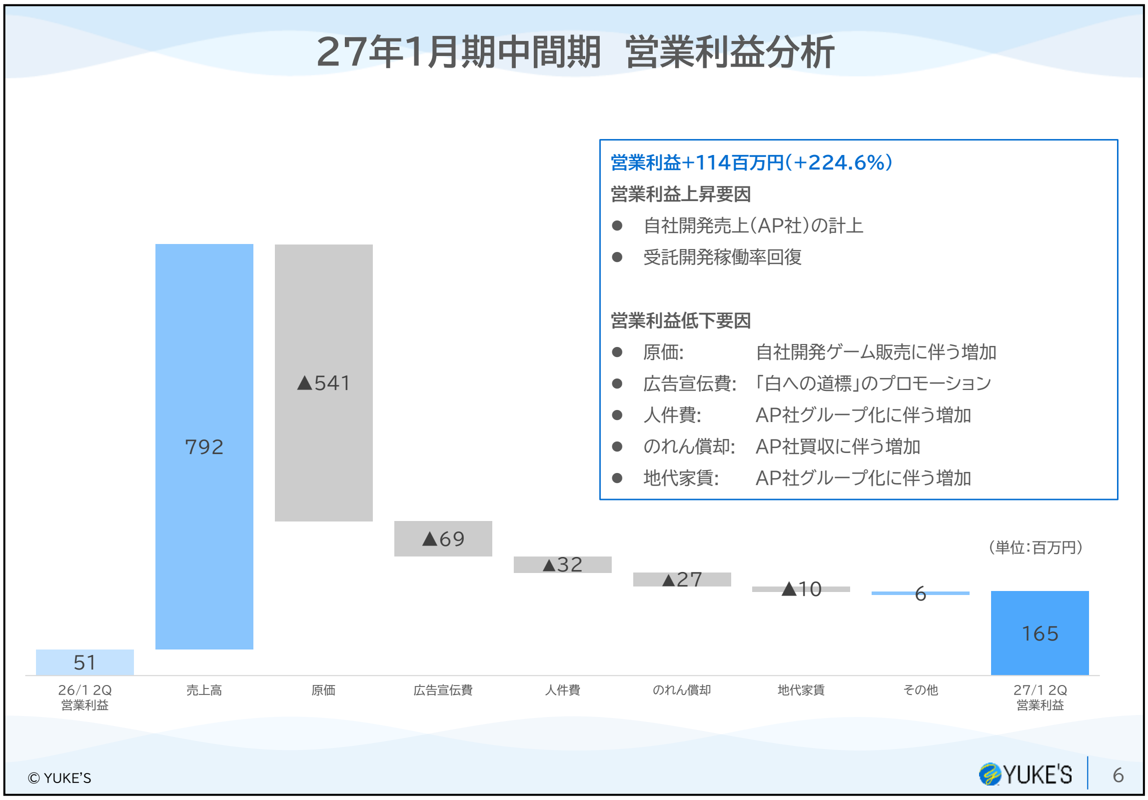
© YUKE'S

売上高は前年同期比43.9%増、営業利益は224.6%増となり、大幅な増収増益となりました。主な増収要因は、受託開発の稼働率向上と、AP社の連結による自社開発売上の計上です。

特に受託事業は計画を上回って推移しており、中間期時点では業績をけん引しています。加えて、開発効率の向上や外注費削減により限界利益率が改善し、営業利益の大幅な増加につながりました。

一方、当期純利益は前年同期比で減少しています。中間期では、税引前利益に合理的に見積もった実効税率を乗じて税金費用を算定する簡便法を採用しているため、その影響により当期純利益は低位にとどまっています。

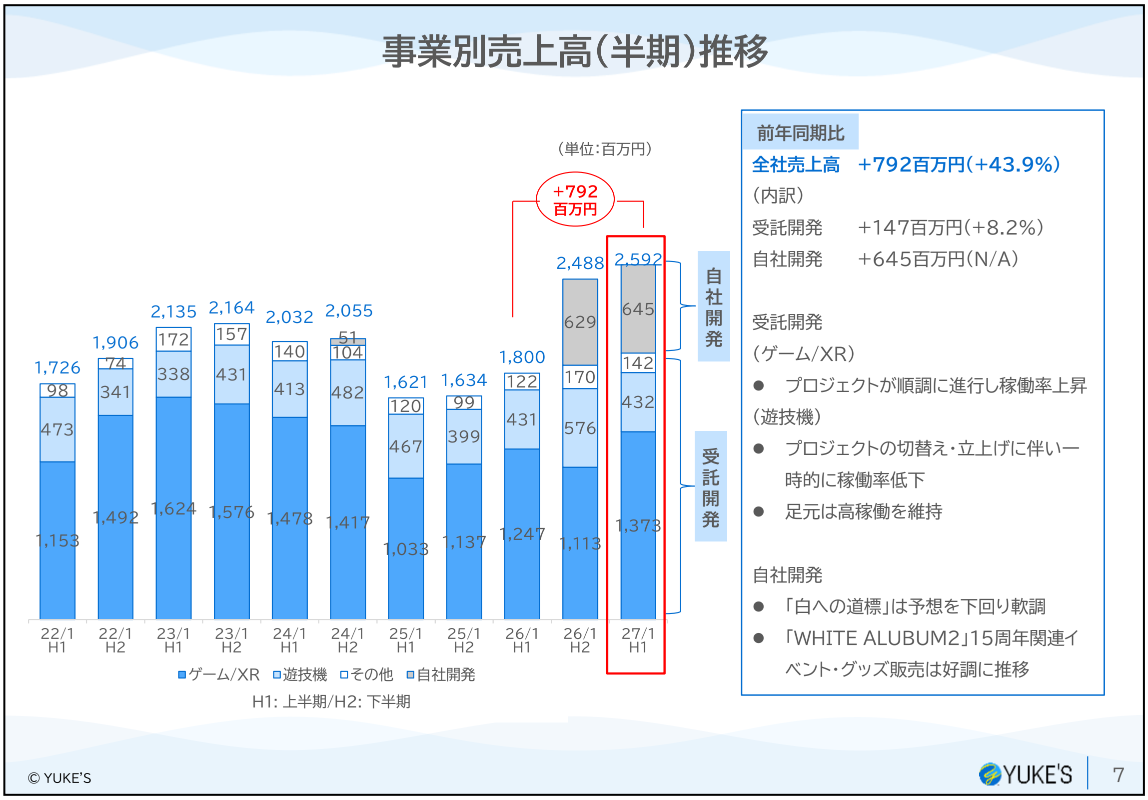
このため、当期純利益は低位となっているものの、本業の収益性を示す営業利益は大きく改善しており、事業収益力は着実に向上しています。



営業利益は前年同期比で114百万円増加しました。主な増益要因は、AP社の連結により自社開発売上が新たに加わったことに加え、受託開発の稼働率回復により売上高が増加したことです。

一方で、自社開発ゲーム販売に伴う原価、「白への道標」の発売・販促に係る広告宣伝費、AP社連結による人件費・地代家賃の増加、さらにAP社買収に伴うのれん償却が発生しています。これらの費用増加はあるものの、売上高の増加と受託開発の収益性改善が上回り、営業利益は大幅に改善しました。

なお、のれん償却は会計上の費用であり、直接的なキャッシュアウトを伴うものではありません。このため、キャッシュ創出力を見るうえでは、のれん償却等を調整した調整後EBITDAもあわせてご覧いただきたいと考えています。

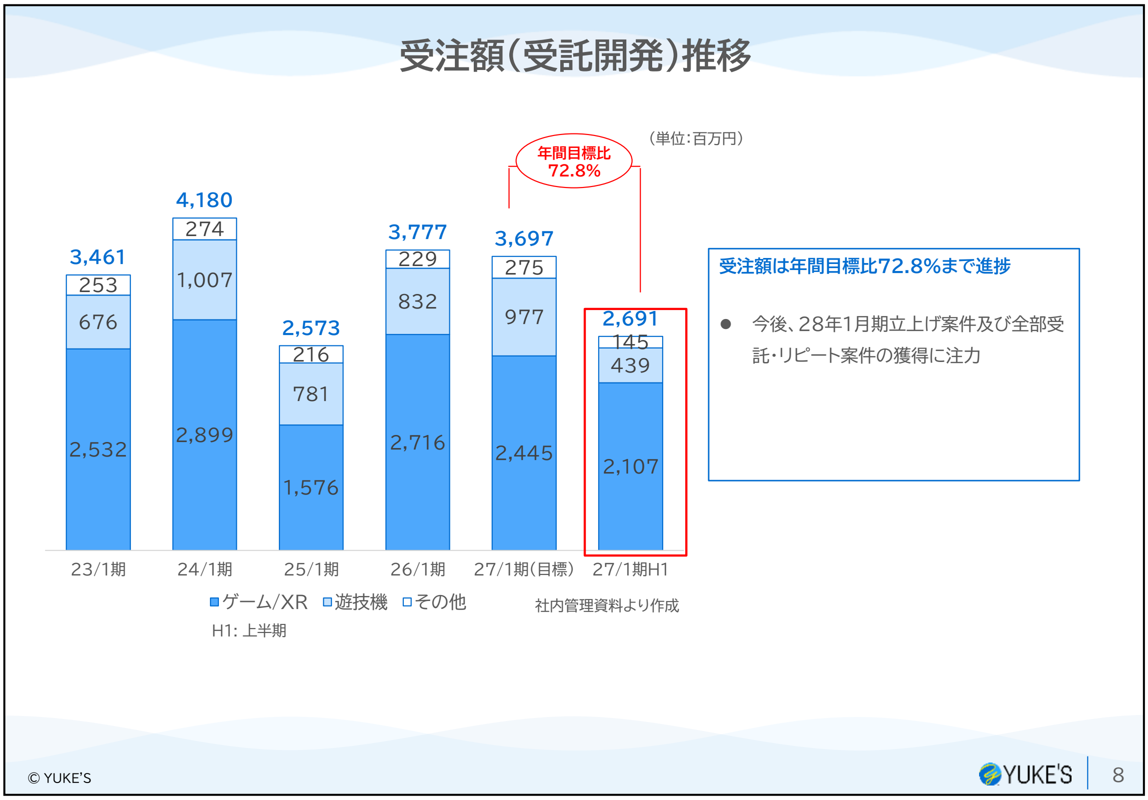


全社売上高は前年同期比792百万円増の2,592百万円となりました。内訳は、受託開発が147百万円増、自社開発がAP社連結により645百万円の新規寄与となっています。

受託開発では、ゲーム・XR分野のプロジェクトが順調に進行し、稼働率上昇により売上をけん引しました。遊技機分野は、プロジェクトの切替え・立上げの影響で一時的に稼働率が低下しましたが、足元では高稼働を維持しており、下期にかけて改善を見込んでいます。

自社開発では、「白への道標」は計画を下回ったものの、「WHITE ALBUM2」15周年関連イベント・グッズ販売は好調に推移しました。なお、自社開発売上の増加はAP社の連結影響によるものです。

全体としては、受託開発ではゲーム・XR分野が業績をけん引し、遊技機分野は足元で改善基調、自社開発ではAP社連結による売上寄与が加わったことで、全社売上高は大きく増加しました。



受託開発の受注額は、中間期時点で年間目標比72.8%まで進捗しました。受注額は将来売上の先行指標であり、受託事業の安定性を見るうえで重要なKPIと考えています。事業開発本部が注力してきた営業活動が一定の成果を上げ、今期の稼働確保に加え、来期以降を見据えた受注活動も進んでいます。

27年1月期中間期　業績概要（貸借対照表）

（単位：百万円）

	2026年1月期 実績	2027年1月期 中間期実績	前期比 増減
現金及び預金	1,263	1,079	▲ 184
売掛金及び契約資産	856	881	25
仕掛品	711	657	▲ 54
その他流動資産	85	72	▲ 13
流動資産	2,915	2,689	▲ 226
固定資産	1,128	1,114	▲ 14
資産合計	4,044	3,804	▲ 240
借入金及び社債	524	313	▲ 211
未払金	331	319	▲ 12
その他流動負債	366	389	23
流動負債	1,221	1,021	▲ 200
長期借入金	25	17	▲ 8
その他固定負債	170	181	11
固定負債	195	198	3
負債合計	1,417	1,219	▲ 198
株主資本	2,514	2,463	▲ 51
その他純資産	112	121	9
純資産合計	2,627	2,584	▲ 43
負債純資産合計	4,044	3,804	▲ 240

ネットキャッシュは749百万円（+35百万円）

資産減少理由：

- 「白への道標」発売に伴う仕掛品減少▲54百万円

負債減少理由：

- 借入金・社債返済▲219百万円

純資産減少理由：

- 配当金支払▲ 83百万円

引き続き良好な財務体質を維持

- 流動比率263.4% (+24.8ポイント)
- 自己資本比率65.9% (+2.9ポイント)

*()は26年1月期末比較

© YUKE'S

YUKE'S　9

貸借対照表は、前期末である2026年1月期末との比較でご説明します。ネットキャッシュは749百万円となり、前期末比35百万円増加しました。

資産面では、「白への道標」の発売に伴い仕掛品が減少しました。負債面では、借入金の返済により有利子負債が減少しています。純資産は配当金支払いの影響で減少した一方、自己資本比率は65.9%、流動比率は263.4%となり、財務健全性は引き続き良好な水準を維持しています。

今後もIP投資や新作開発に一定の資金需要を見込んでいますが、現時点では十分な財務余力を維持しており、財務健全性を確保しながら成長投資を継続していく方針です。

① 2027年1月期中間期 ハイライト

② 2027年1月期中間期 決算概要

③ 2027年1月期中間期 振り返り

④ 個別決算説明会について

© YUKE'S

受託開発事業の振り返り

	27年1月期 年間目標/方針	27年1月期 中間期振り返り
ゲーム/XR事業	ゲーム/XR売上高: 2,835百万円 中長期的な安定的成長基盤の確立 ● 国内営業活動目標 リード件数 90 企画提案見積数 12 成約数 8 ・リード拡大による案件総出力強化 ・28年1月期立ち上げ案件の獲得 ・リピート/全部受託案件の拡大 ● 海外営業目標 成約数 1	ゲーム/XR売上高: 1,373百万円(年間予算進捗率48.4%) 稼働率は計画を上回り、開発効率向上・外注費削減により限界利益率改善 ● 国内営業活動状況 リード件数 40 企画提案見積数 8 成約数 5 ・積極的に企画提案を実施 ・引き続き28年1月期立上げ案件の獲得に注力 ● 海外営業状況 ・小規模であるがXR関連で1件受注 ・米国IPホルダーと商談中
遊技機	遊技機売上高: 963百万円 収益性改善に注力 ● 外注管理及び品質管理徹底 外注比率30%以下	遊技機売上高: 432百万円(年間予算進捗率44.9%) プロエクトの切替え・立上げに伴い一時的に稼働率低下 足元では高稼働を維持しており、下期に改善を見込む ● 外注管理及び品質管理 ・外注比率は30%を若干下回る水準で推移し、価格転嫁により案件採算を維持 ・品質管理強化により品質は改善し、足元では特段問題なく進行

© YUKE'S
YUKE'S 11

ゲーム・XR分野は、売上高1,373百万円、年間予算進捗率48.4%となりました。プロジェクトは順調に進行しており、稼働率は計画を上回っています。また、開発効率の向上や外注費の削減により限界利益率も改善し、受託事業全体の収益性向上をけん引しました。

営業面では、国内で積極的な企画提案を継続するとともに、2028年1月期に立ち上がる案件の獲得に注力しています。海外についても、小規模ながらXR関連案件を1件受注しており、米国IPホルダーとのゲーム案件商談も進めています。

遊技機分野は、売上高432百万円、年間予算進捗率44.9%となりました。上期はプロジェクトの切替え・立上げが重なったことで一時的に稼働率が低下しましたが、足元では高稼働を維持しており、下期にかけて改善を見込んでいます。

外注比率は30%超となっているものの、顧客への価格転嫁により案件採算は維持しています。また、品質管理体制の強化により品質面も改善しており、足元では特段の問題なく進行しています。

今後も案件獲得を着実に進め、収益基盤をさらに安定させていきます。

自社開発事業の振り返り

27年1月期　目標/方針	27年1月期　中間期振り返り
売上高:1,263百万円 **IP収益(自社開発)比率23.8%を計画** **①自社開発新作ゲームの開発推進** ● 「うたわれるもの 白への道標」発売 ● 「ジャスミン」「project kizuna」鋭意開発中 ● 新規IPゲーム企画の立ち上げ ● 既存IP資産の活用強化 　• 他プラットフォームや多言語版への移植等 **②自社公募制度(ユークス)の事業化** **③IP戦略投資継続**	**売上高:　645百万円（年間予算進捗率51.1%）** **IP収益比率は24.9%** **①自社開発・新作ゲームの状況** ● 「白への道標」は計画未達、「ジャスミン」「project kizuna」は順調に開発進行 ● YUKE' S/アクアプラスの新規IPゲーム共同企画に加え、既存IPのSwitch 2・Steam向け移植展開を推進 ● 「WHITE ALBUM2」15周年イベントは好調／「ロストフラグ」は2026年2月サービス終了 **②自社公募制度** ● 社内公募により2案件選定し、事業化検討フェーズへ ③IP戦略投資 ● 制作委員会への戦略出資を継続検討 ● 前年度出資映画2作品が2026年3月及び5月公開

© YUKE'S
YUKE'S　12

自社開発事業は、売上高645百万円、年間予算進捗率51.1%、IP収益比率24.9%となりました。

新作ゲームでは、「白への道標」が計画未達となりました。一方、「WHITE ALBUM2」15周年イベントは好調で、関連グッズ販売も堅調に推移しており、既存IPの展開には一定の手応えがあります。

また、「ロストフラグ」は2026年2月にサービスを終了しており、今後はこれに代わる収益源の育成が重要になります。現在、「ジャスミン」「project kizuna」は順調に開発が進行しているほか、YUKE 'Sとアクアプラスによる新規IPゲームの共同企画、既存IPの他プラットフォームへの移植開発も進めています。

加えて、海外ではアクアプラス作品の認知度にまだ拡大余地があると認識しており、中国語圏・英語圏を中心に認知向上施策を強化していきます。

今後は、新作開発、既存IPの多面展開、イベント・グッズ、海外展開を組み合わせることで、特定タイトルに依存しない、より安定したIP収益基盤の構築を目指していきます。

27年1月期配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置付け、将来の事業展開と事業の特性を考慮した内部留保等を勘案しながら、安定した配当を維持しつつも業績に応じて株主の皆様に対する利益還元を行っていくことを基本方針としております。

26年1月期の配当方針

- 連結配当性向30%を目安に決定
- 下限水準　1株当たり年間10円

年間配当金: 10円
配当性向: 47.6%

→

27年1月期の配当方針

- 連結配当性向30%を目安に決定
- 下限水準　1株当たり年間10円

年間配当金: 10円
配当性向: 30.1%

© YUKE'S

引き続き、26年1月期と同様の方針を継続し、株主の皆様への利益還元を重要視しております。

27年1月期中間期　受託開発案件実績（抜粋）

ゲーム

うたわれるものシリーズ
Switch 2向け移植

タイトル
『うたわれるもの 白への道標』
『モノクロームメビウス 刻ノ代贖』

発売元
株式会社アクアプラス

ゲーム

地球防衛軍シリーズ
Switch 2向け移植

タイトル
『地球防衛軍5 for Nintendo Switch2 』
『地球防衛軍6 for Nintendo Switch2 』

発売元
株式会社ディースリー・パブリッシャー

XR

初音ミク
担当楽曲およびMCのCG制作

イベント
『HATSUNE MIKU EXPO 2026 North America』

© Crypton Future Media, INC. www.piapro.net piapro

XR

あんさんぶるスターズ
担当楽曲およびMCのCG制作

イベント
『あんさんぶるスターズ！！DREAM LIVE Tour 10th ALL STARS!!』

©2021 Happy Elements K.K／スタライブプロジェクト

XR

ポラポリポスポ
「ゼロエディットモーションキャプチャー」技術による演奏モーション制作

イベント
『進化系生演奏ライブ：We are POLARIS』

©Bandai Namco Experience Inc. ©Polaporipospo

© YUKE'S

遊技機事業については、顧客との守秘義務契約に従い具体的な案件名の公表は控えていますが、当社が手掛けた案件として、2027年1月期中間期にパチンコ5タイトルがリリースされています。

27年1月期中間期　自社開発案件実績（抜粋）

ゲーム

2026年5月28日発売

NintendoSwitch2
Play Station 5
Steam

ゲーム

2026年5月28日発売

NintendoSwitch2

ライブ

2026年2月22日
2026年8月30日（振替公演）

© YUKE'S

① 2027年1月期中間期 ハイライト

② 2027年1月期中間期 決算概要

③ 2027年1月期中間期 振り返り

④ 個別決算説明会について

© YUKE'S

個別決算説明会について

2026月9日10日発表の2027年1月期中間決算について、機関投資家、アナリストの皆様を対象とした個別決算説明会(WEB会議)の受付をいたします。ご希望の際は、下記の要領にてお申込みをお願いいたします。担当者より順次ご連絡をさせていただきます。

お申込み方法

- ir@yukes.co.jpにメールにてお申込みください。

記載事項

- 貴社名、ご担当者様名、役職をご記載ください。
- ご希望の日時を複数ご提示ください。

当社対応者

- 代表取締役社長　谷口 行規　取締役コーポレート本部長CFO　吉原 謙太

WEB会議の日時が決定いたしましたら、Microsoft Teamsを設定いたします。個別決算説明会についてご質問等ございましたら ir@yukes.co.jp までご連絡ください。

© YUKE'S

本資料の取り扱いについて

1. 掲載された情報についてご注意いただきたい点
当資料を通じ、財務情報、経営指標等の情報の開示を行います。当社は、当資料を通じて情報開示を行うにあたり細心の注意を払っておりますが、当資料に掲載した情報について内容の正確性等を保証いたしません。当資料による情報開示は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断でお願い致します。当社は、当資料に掲載された情報を利用したことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。
2. 将来の見通しに関する事項について
当資料に掲載されている情報には、業績予測等の将来の見通しに関する記述が含まれていますが、これらはリスクや不確実性を内包するものです。業績予測等の将来の見通しに関する記述は、その実現性を保証するものではなく、当社を取り巻く経営環境や市場動向の変化等により、実現しない可能性があることにご注意ください。
3. 当資料の運用について
当資料は予告なく配布の中止や内容の変更を行うことがあります。当社は、当資料を利用できなかったことにより生じたいかなる損害についても、一切責任を負いません。
4. 勧誘行為への非該当について
当資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

お問い合わせ先

株式会社ユークス IR担当
メールアドレス：ir@yukes.co.jp

© YUKE'S